

資料

三重県におけるAIDS・HIV感染症の現状と近隣県との比較

平岡 稔, 福田美和, 高橋 裕明, 山内昭則

The current situation of AIDS, HIV infection in Mie Prefecture and comparison with those of neighboring prefectures

Minoru HIRAOKA, Miwa FUKUTA, Hiroaki TAKAHASHI, and Akinori YAMAUCHI

2011年に三重県内において報告のあったHIV感染者は7件で、前年に比べて1件の増加、AIDS患者は5件で前年に比べて2件の増加となった。1989年からの累計では、HIV感染者119件、AIDS患者75件となった。HIV保健所等検査数は2008年をピークに全国、愛知、岐阜、三重の三県とも減少しているにも関わらず、AIDS患者・HIV感染者数は三重県、愛知県、名古屋市、岐阜県で増加傾向にある。感染症発生動向調査に基づく三重県のAIDS患者・HIV感染者情報を分析したところ、外国国籍によるAIDS患者・HIV感染者の割合が高く、男性同性間性的接触(以下MSM)の割合が近年、増加傾向にあることから外国人、MSMに対してよりきめ細かな対策の実施が必要であることがわかった。これらの結果については広く情報提供を行っていくとともに、AIDS/HIV対策を進める上での参考資料になると考えられる。

キーワード : HIV抗体検査件数, 保健所等における相談件数, AIDS患者・HIV感染者数
国籍, MSM

はじめに

三重県では、広く県民が相談・検査を受けることができる体制を整備するとともに、県民への正しい知識の普及啓発を図り、エイズに対する不安の解消および蔓延の防止に資することを目的として1993年よりエイズに関する相談およびHIV検査を匿名で実施しているところである。2006年から厚生労働省がHIV(AIDS)検査・相談の充実を図る取り組みを強化したことや、AIDS患者・HIV感染者の届け出数が増加の傾向を示していることから、三重県では、HIV検査受入体制の強化のひとつとして同12月から津保健所においてHIV即日検査を開始したことなどにより2007、2008年と保健所等におけるHIV抗体検査数は増加した。その後、2008年の1,805件をピークに減少し、2011年には1,175件まで落ち込んでいる。

2011年エイズ発生動向年報(確定値)¹⁾によると、国内の新規HIV感染者1,056人、新規AIDS患者473人で、1日約4.2件の新規報告がある。三重県における2011年発生動向調査によると、新規HIV感染者7人、新規AIDS患者5人で前年に比べてHIV感染者1人、

AIDS患者2人の増加となっている。HIV(AIDS)感染者は増加をしているにも関わらず、検査や相談を受ける人は年々減る一方であり、これらの現状を踏まえた上で、三重県内における(新規)HIV感染者/(新規)AIDS患者届出数(国籍、性別、感染経路別)や年齢階級別HIV感染者数/AIDS患者数などを把握し、近隣の愛知県や岐阜県と比較することで三重県の現状と地域特性を分析したので報告する。

方法

全国については2012年エイズ動向委員会報告(保健所等におけるHIV抗体検査件数(確定値)、保健所等における相談件数(確定値)²⁾、2011年エイズ発生動向年報(確定値)を比較対象とした。

愛知県についてはエイズの現状/アイチエイズインフォメーション愛知県の状況(2011年12月31日現在)³⁾を比較対象とした。

岐阜県については岐阜県におけるHIV感染者/エイズ患者の状況(2011年12月末;岐阜市も含む)⁴⁾、

HIV感染者/エイズ患者の状況（2009年12月末；岐阜市も含む）⁵⁾を比較対象とした。

三重県については感染症発生動向調査で1989年から2012年までに報告のあった194人について感染症法に基づく三重県AIDS患者・HIV感染者情報を解析対象とした。

結果

(1) 保健所等におけるHIV抗体検査件数

保健所等におけるHIV抗体検査件数は全国、愛知県、岐阜県、三重県で2008年をピークに減少傾向が見られる（図1-1、図1-2）。

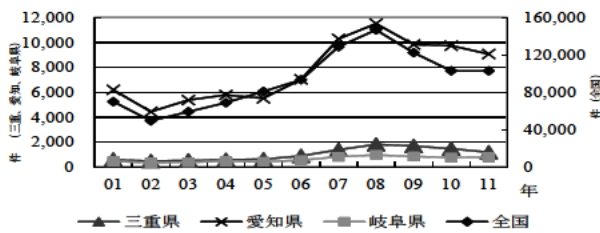


図1-1 保健所等におけるHIV抗体検査件数

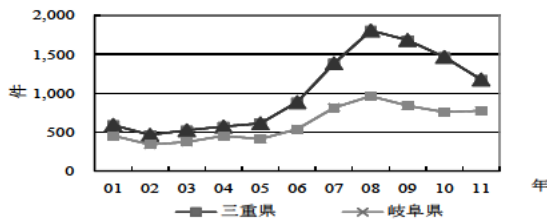


図1-2 保健所等におけるHIV抗体検査件数
(三重県と岐阜県の再掲)

三重県では2010年の1,465件に対し、平成2011年は1,175件と対前年比80%で愛知県同93%、岐阜県同102%と比較して減少率が高いことがわかった。

(2) 保健所における相談件数

保健所における相談件数については三重県では2010年の1,371件に対し、2011年は803件（対前年比59%）と大きく下回った。過去5年間を見ると全国、愛知県でも減少傾向にある（図2）。

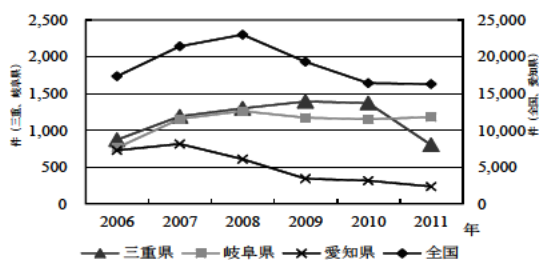


図2 保健所における相談件数

(3) AIDS患者・HIV感染者の累積報告数

AIDS患者・HIV感染者の累積報告数は三重県、愛知県、名古屋市、岐阜県でいずれも増加傾向にある（図3-1）。

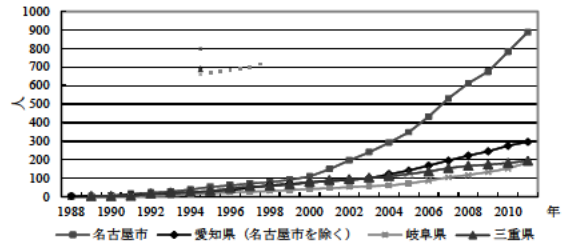
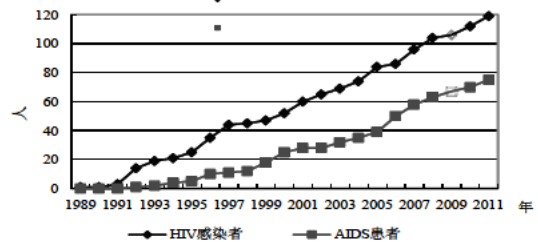
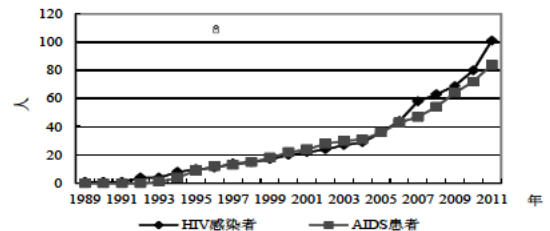


図3-1 AIDS患者・HIV感染者の累積報告数

特に名古屋市ではAIDS患者・HIV感染者数は急増している。また、岐阜県と比較すると、三重県はHIV感染者数よりAIDS患者数が少ない傾向にあった（図3-2、図3-3）。



三重県
図3-2 AIDS患者・HIV感染者の累積報告数



岐阜県
図3-3 AIDS患者・HIV感染者の累積報告数

(4) 感染経路別AIDS患者・HIV感染者累積報告数

三重県におけるHIV感染者報告例119件の感染経路を見ると、異性間性的接触が61件（51.3%）、同性間性的接触が21件（17.6%）、その他が3件（2.5%）、不明が34件（28.6%）で、性的接触による感染が全体の約7割を占めている。

AIDS患者報告例75件の感染経路を見ると、異性間性的接触が42件（56.0%）、同性間性的接触が7件（9.3%）、静注薬物使用2件（2.7%）、母子感染1件（1.3%）、その他が1件（1.3%）、不明が22件（29.3%）となっている。

さらに三重県における日本国籍男性のAIDS患者・HIV感染者報告例97件の感染経路別年次推移を見る

と、異性間性的接触の割合が53件(55%)を占めるが同性間性的接触は26件(27%)であった(図4-1)。しかし、近年は同性間性的接触の割合が増加傾向にある(図4-2)。

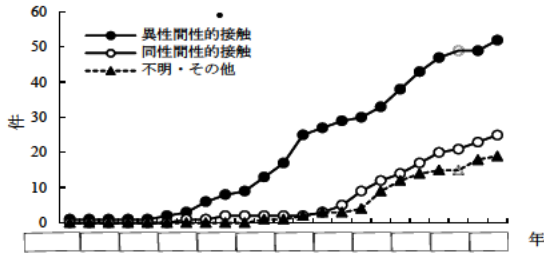


図4-1 日本国籍男性のAIDS患者・HIV感染症の感染経路別累積報告数(三重県)

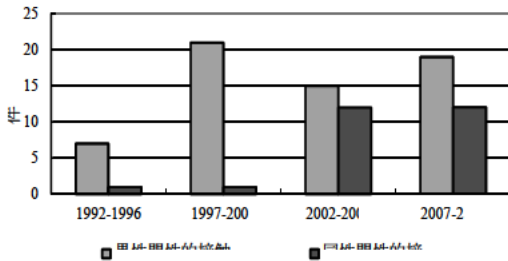
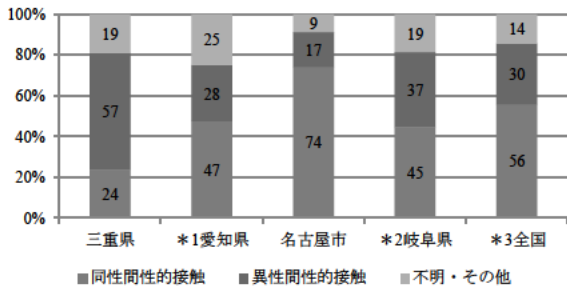


図4-2 日本国籍男性のAIDS患者・HIV感染症の感染経路別年次推移
愛知県、名古屋市、岐阜県では同性間性的接触の割合が高く、特に名古屋市のような都市部は全体の74%(558件)を占める(図5)。



*1愛知県は名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市分を除く
*2岐阜県は外国籍も含む
*3全国は2011年12月25日現在(凝固因子製剤による感染者は除く)

図5 感染原因別AIDS患者・HIV感染者割合(2011年12月31日現在:日本国籍)

(5) 日本国籍年代別 AIDS 患者・HIV 感染者数

三重県における日本国籍の AIDS 患者・HIV 感染者報告例 110 件を年齢階級別に見ると、30-39 歳が 32 件(29.1%)と最も多く、次いで 50-59 歳が 25 件(22.7%)となっている(図6-1)。また性別では男性が 97 件(88.2%)を占め、年代別では 30 歳代、50 歳以上の順に多かったが、名古屋市、岐阜県では 30 歳代の割合が高い傾向にあった(図6-2)。

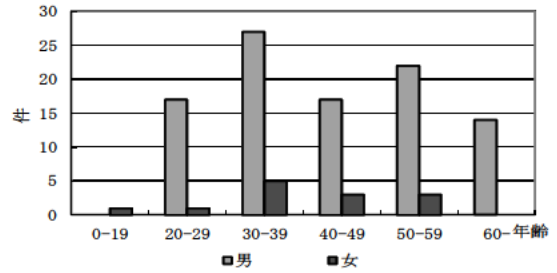
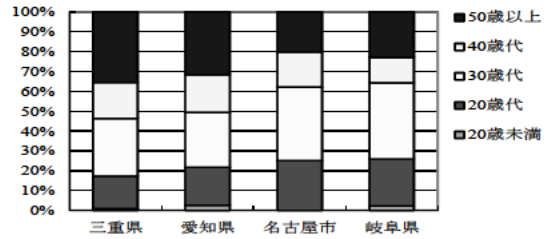


図6-1 男女年代別報告数(三重県 日本国籍)



*1愛知県は名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市分を除く
*2岐阜県は外国籍も含む

図6-2 年代別AIDS患者・HIV感染者割合(2011年12月31日:日本国籍)

(6) 外国国籍年代別 AIDS 患者・HIV 感染者数

三重県における外国国籍年代別 AIDS 患者・HIV 感染者の報告例は 80 件(41.2%)を占め、愛知県 69 件(31.2%)、名古屋市 135 件(15.2%)、岐阜県 43 件(23.3%)に比べて割合が高い。80 件を性別、年齢階級別で見ると、女性が 55 件(68.7%)、さらに 20-29 歳女性が 30 件(37.5%)を占めた(図7-1)。

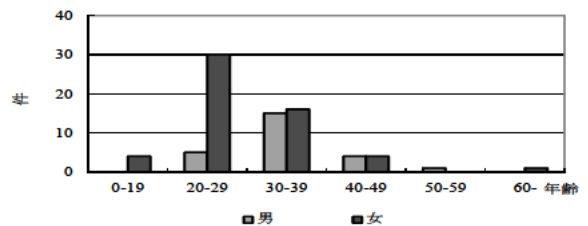


図7-1 男女年代別AIDS患者・HIV感染者報告数(三重県 外国国籍)

5年毎の報告例を見ると、1997年以降は日本国籍が多く、女性は減少傾向にあるものの外国国籍が多かった(図7-2)。

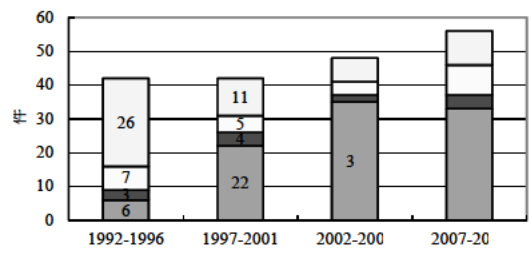


図7-2 男女国籍別AIDS患者・HIV感染者報告数

2011年9月末現在の都道府県別外国人登録者数⁶⁾は、愛知県201,414人(全国で3番目)、岐阜県47,590人(同12番目)、三重県45,343人(同13番目)、さらに人口10万人あたりに換算すると⁷⁾、三重県は2.45人と東京都3.09人、愛知県2.72人に続いて3番目、岐阜県は2.30人で5番目となっている。さらに三重県は外国国籍に占めるAIDS患者・HIV感染者の割合が80件(0.18%)を占め愛知県225件(0.12%)、岐阜県43件(0.09%)と比べると有意差が認められた($p < 0.01$)。

考 察

三重県における2011年のHIV感染者数は7件となっており、2010年の6件、2009年の2件に比べて増加している。一方、検査件数は2010年1,465件から2011年の1,175件へと、約20%も減少していることから潜在的な感染が、広がっている恐れがある。愛知県や岐阜県においても検査件数が減っているにも関わらず、AIDS患者・HIV感染者の増加傾向が見られた。

また、2011年のAIDS患者の報告数は5件と前年に比べて2件増加しており、感染に気づかずに発症する人も増加傾向にある。AIDS患者の早期発見による発症予防や感染拡大防止のためにも保健所等でのHIV検査の積極的な利用を呼びかける必要がある。

2012年1月19日に感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(エイズ予防指針)⁸⁾が改正され、個別対策層に、MSM、薬物乱用者等が明記され、新たに検査・相談体制の充実が加わったことより、青少年、外国人、MSM、性風俗産業従事者、薬物乱用者(静注薬物使用者)に対してよりきめ細かな対策が必要となる。薬物乱用者はHIV感染リスクと強く関連すると言われており、三重県では過去には外国国籍男性患者2例が報告されている。

飲酒・禁煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査(2010)⁹⁾では、中学生の薬物乱用問題は増加傾向で、有機溶剤から大麻・覚せい剤に変わっていることから、今後HIV感染の拡大が懸念される。

感染経路別について近年の傾向を見ると、同性間性的接触の割合が増加してきているが、名古屋市や岐阜県に比べるとまだ少ない。異性間性的接触の報告の中には、自身のセクシュアリティを明らかにすることを避けるために、異性間性的接触や不明と申告したMSMも含まれることが考えられるため¹⁰⁾、検査相談においてよりきめ細やかな対応が必要となる。MSMを対象とした検査の実施の必要性はもちろん、愛知県名古屋市で活動するHIV/AIDS予防団体ANGEL LIFE

NAGOYA(エンジェルライフナゴヤ)や日本に暮らす外国籍住民が医療や福祉のサービスと情報にアクセスすることを支援する市民団体(NPO法人)CHARMとの連携も必要であると考ええる。

以上のことから、三重県においても性的指向の側面で配慮の必要なMSMを踏まえた対策を強化する必要がある。また、外国籍患者が多いことを踏まえて、引き続き、文化的障壁のある外国国籍患者への個別対策が必要である。

また、近年HIV検査数、相談検査数が大きく減少していることから、検査未受診層(学生、若年層等)への教育、啓発を行うなど、潜在的なニーズを引き出すとともに、検査や相談を受ける人の利便性を考慮した対策が必要である。具体的にはイベント検査、検査時間帯の見直し、即日検査の充実などを実施していく必要があると考ええる。

文 献

- 1) 2011年 エイズ発生動向年報(確定値)。
- 2) 2012年 エイズ動向委員会報告。
2011年 保健所等におけるHIV抗体検査件数(確定値)、保健所等における相談件数(確定値)。
- 3) 愛知県:エイズの現状/アイチエイズインフォメーション愛知県の状況(2011年12月31日現在)。
- 4) 岐阜県:岐阜県におけるHIV感染者/エイズ患者の状況(2009年12月末;岐阜市も含む)。
- 5) 岐阜県:岐阜県におけるHIV感染者/エイズ患者の状況(2011年12月末;岐阜市も含む)。
- 6) 法務省入国管理局:平成23年9月末現在における外国人登録者数について。
- 7) 総務省統計局:人口推計(平成23年10月1日現在)都道府県別人口。
- 8) 厚生労働省:後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(エイズ予防指針) 健疾発0119 第1号 平成24年1月19日。
- 9) 研究分担者:和田 清. 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター. 精神保健研究所 薬物依存研究部長:飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査(2010年)。
- 10) 市川誠一, 佐藤末光, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘 伊藤俊宏, 健山正男:厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業「男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究」2005-2007年。